

国分寺市

# 本町（国分寺村石器時代）遺跡

## （第 22 次調査）

—国分寺市本町 2 丁目新築工事に  
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2023. 10

国分寺市教育委員会







国分寺市

# 本町（国分寺村石器時代）遺跡

## （第 22 次調査）

—国分寺市本町 2 丁目新築工事に  
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2023. 10

国分寺市教育委員会



## 例 言

1. 本書は、東京都国分寺市本町二丁目5番地内に所在する本町（国分寺村石器時代）遺跡（国分寺市No.28 遺跡）第22次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は、事務所兼共同住宅建設に伴う事前調査として実施したもので、調査面積は、確認調査12.50㎡、本発掘調査14.94㎡の計27.44㎡である。
3. 本発掘調査は、国分寺市教育委員会が行った確認調査の結果を踏まえて、開発事業者である株式会社リアルウインズと国分寺市教育委員会及びトキオ文化財株式会社の三者間で協定を締結し、埋蔵文化財の取り扱いの措置、発掘調査の実施方法などに関わる各々の役割を定め、国分寺市教育委員会が実施し、トキオ文化財株式会社が支援業務を行った。
4. 本発掘調査の発掘から調査報告書作成に至るまでの費用は、開発事業者が負担した。
5. 発掘調査・出土品等整理作業・報告書作成作業は、下記の期間に実施した。  
現地発掘調査 令和4年（2022）10月24日～令和4年（2022）10月31日  
出土品等整理作業 令和4年（2022）11月1日～令和5年（2023）9月15日  
報告書作成作業 令和4年（2022）11月1日～令和5年（2023）10月31日
6. 発掘調査・出土品等整理・報告書作成作業は、国分寺市教育委員会の平塚恵介が担当し、発掘調査および出土品等整理・報告書作成作業の一部をトキオ文化財株式会社の針木康介が補佐した。
7. 本書の編集は針木康介が行い、原稿は、第1・2章を平塚恵介、その他を針木康介が執筆した。
8. 発掘調査における遺構写真撮影は針木康介、整理調査における遺物実測・拓本・トレース・写真撮影は川原裕子、遺構のトレース・版下作成は万場 博が行った。
9. 本書の挿図・表等の作成および編集業務には、Microsoft®Word®・Excel®、Adobe®Illustrator®・Photoshop®・Indesign®の各ソフトを用いた。また、縄文土器の展開図として、株式会社ラングのPEAKIT 画像を用いた（第12図1）。
10. 遺跡の略記号は「K28-22」とし、図面・写真や出土遺物の注記等はこの表記を用いた。
11. 発掘調査における各種の図面は、基本的に遺構平面図・断面図は1/20で記録した。また、土の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修財団法人日本色彩研究所色票監修）を参考にした。
12. 本書で掲載・参照した地形図等は、以下の通りである。  
国土地理院 「2.5万分の1地形図 立川」  
東京都縮尺2,500分の1地形図  
財団法人日本地図センター 1996 「神奈川県武蔵国北多摩郡国分寺村〔明治14年測量〕『明治前期測量2万分1フランス式彩色地図 第一軍管地方2万分1迅速測原圖覆刻版』
13. 本調査に関わる出土遺物、調査記録類は、国分寺市教育委員会にて保管している。
14. 本書作成にあたり、以下の方々に御指導・御協力を賜りました。記して感謝申し上げます。（五十音順・敬称略）  
えびじ建築設計事務所 株式会社ラング 藤波啓容（有限会社アルケールサーチ） 中山真治
15. 調査体制  
調査主体 国分寺市教育委員会  
調査担当 平塚恵介  
調査支援 トキオ文化財株式会社  
調査員 針木康介  
調査補助員 川原裕子  
発掘・整理調査参加者  
石川太郎 石村 崇 川原裕子 高林 均 万場 博 矢花正之

## 凡 例

1. 遺構の表記には、以下の略号を用いた。

SI 数字 J: 縄文時代の竪穴建物

2. 遺構平面図・断面図で使用した標高は T. P. (Tokyo Peil) を示す。国家座標は世界測地系座標を使用した。
3. 調査区内のグリッドは、世界測地系を基準に 5 m × 5 m で設定し、南北はアルファベット、東西はアラビア数字で表記した。
4. 実測図の縮尺は、それぞれの図に記した。
5. 遺構平面図・断面図及び遺物実測図で主に使用した線種・スクリーンパターンは、以下のとおりである。その他は挿図中に示した。

### 遺構

[ ] 竪穴建物想定範囲    ■ 未掘遺構    ▨ 擾乱

### 遺物

■ 石器 (磨面)

6. 遺構・遺物に関する表において、( ) は推定値、[ ] は残存値を表す。また、単位は特に記載のない限り、長さは「cm」、重さは「g」である。
7. 縄文土器の分類については、以下の文献・論文を参考にした。

小林達雄編 2008 『総覧縄文土器』アム・プロモーション

大野尚子・小林謙一編 2016 『シンポジウム縄文研究の地平 2016 - 新地平編年の再構築 - 発表要旨』

縄文研究の地平グループ・セツルメント研究会



# 目次

例言  
凡例  
目次

第1章 発掘調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	1
(1) 確認調査	1
(2) 本発掘調査と整理調査	3
第2章 調査地区の概観	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3節 層序	10
第3章 検出された遺構と遺物	12
第1節 調査の概要	12
第2節 縄文時代	12
(1) 竪穴建物	12
第4章 総括	27
第1節 縄文時代	27
(1) 調査成果	27
(2) 既往調査地点との相関性	27

引用・参考文献  
写真図版  
報告書抄録  
奥付

## 挿図目次

第1図 確認調査(第21次調査)調査区全体図・土層柱状図	2	第13図 竪穴建物S130J出土遺物実測図(2)	16
第2図 本町(国分寺村石器時代)遺跡と調査地点の位置	3	第14図 竪穴建物S130J出土遺物実測図(3)	17
第3図 野川扇流域の主な旧石器・縄文時代遺跡	4	第15図 竪穴建物S130J出土遺物実測図(4)	18
第4図 調査地点周辺の旧地形	4	第16図 竪穴建物S130J出土石器写真	19
第5図 本町(国分寺村石器時代)遺跡と周辺遺跡	5	第17図 竪穴建物S131J実測図・出土遺物分布図	21
第6図 大野延太郎のスケッチ	7	第18図 竪穴建物S131J出土石器分布図	22
第7図 本町(国分寺村石器時代)遺跡全体図	8	第19図 竪穴建物S131J出土石器分布図	22
第8図 本発掘調査(第22次調査)調査区全体図	11	第20図 竪穴建物S131J出土遺物実測図(1)	23
第9図 竪穴建物S130J実測図・出土遺物分布図	12	第21図 竪穴建物S131J出土遺物実測図(2)	24
第10図 竪穴建物S130J出土石器分布図	13	第22図 竪穴建物S131J出土石器写真	25
第11図 竪穴建物S130J出土石器分布図	14	第23図 本町(国分寺村石器時代)遺跡 竪穴建物分布図	28
第12図 竪穴建物S130J出土遺物実測図(1)	15		

## 表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	6	第7表 竪穴建物S131J出土石器観察表(1)	25
第2表 本町(国分寺村石器時代)遺跡調査履歴表 (明治26年～令和4年度)	9	第8表 竪穴建物S131J出土石器観察表(2)	26
第3表 竪穴建物S130J出土石器観察表(1)	19	第9表 竪穴建物S131J出土土製品観察表	26
第4表 竪穴建物S130J出土石器観察表(2)	20	第10表 竪穴建物S131J出土石器観察表	26
第5表 竪穴建物S130J出土土製品観察表	20	第11表 出土遺物集計表	26
第6表 竪穴建物S130J出土石器観察表	20	第12表 本町(国分寺村石器時代)遺跡 竪穴建物一覧表	29

## 図版目次

### 図版 1

1. 確認調査トレンチ設定状況 (南東から)
2. Aトレンチ表土層前後遺物出土状況 (西から)
3. Bトレンチ表土層前後遺物出土状況 (北から)
4. Aトレンチ遺構検出状況 (西から)
5. Bトレンチ遺構検出状況 (南から)
6. Bトレンチ遺構確認作業状況 (北から)
7. Aトレンチ南壁中央土層断面 (北から)
8. Bトレンチ東壁中央土層断面 (北西から)

### 図版 2

1. 本発掘調査前全景 (北西から)
2. 本発掘調査後全景 (北西から)
3. 竪穴建物S130J西側検出状況 (南から)
4. 竪穴建物S130J東側検出状況 (南から)
5. 竪穴建物S130J調査後状況 (南から)
6. 竪穴建物S130J調査後状況 (南から)
7. 竪穴建物S130J調査後状況 (北から)
8. 竪穴建物S130J南北土層断面 (北西から)

### 図版 3

1. 竪穴建物S130J西側遺物出土状況 (南から)
2. 竪穴建物S130J東側遺物出土状況 (南から)
3. 竪穴建物S130J遺物出土状況 (南東から)
4. 竪穴建物S130J遺物出土状況 (南から)
5. 竪穴建物S130J遺物出土状況 (南から)
6. 竪穴建物S130J遺物出土状況 (北西から)
7. 竪穴建物S131J検出状況 (北東から)
8. 竪穴建物S131J調査後状況 (北東から)

### 図版 4

1. 竪穴建物S131J南壁土層断面 (北東から)
2. 竪穴建物S131J西壁土層断面 (南東から)
3. 竪穴建物S131J遺物出土状況 (東から)
4. 竪穴建物S131J遺物出土状況 (北から)
5. 竪穴建物S131J遺物出土状況 (東から)
6. 竪穴建物S131J遺物出土状況 (北から)
7. 竪穴建物S131J遺物出土状況 (西から)
8. 竪穴建物S131J遺物出土状況 (南から)

# 第1章 発掘調査の概要

## 第1節 調査に至る経緯

令和4年7月26日付で、株式会社リアルウィンズ（以下、事業者と略）より国分寺市教育委員会（以下、市教委と略）に、文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出された（4国教教ふ取第362号）。事業予定地は、国分寺市本町二丁目324番120（住居表示5番地）先にあたり、地上4階建ての事務所兼集合住宅建設とそれに伴うガス・水道・電気等のインフラ工事を行う計画内容であった。当該地は、周知の本町（国分寺村石器時代）遺跡（国分寺市No.28遺跡）の範囲に該当し、これまでの発掘調査により縄文時代中期の集落跡を主体とする遺構や遺物が発見されていることから、市教委は過去の調査履歴と今後の開発計画を照合しながら、埋蔵文化財の保護措置について検討した。

その結果、工事の掘削深度が深くなる建物基礎部分に対しては、遺構の存否・分布状況を探るための確認調査を要すると判断し、市教委はその旨を明記した埋蔵文化財協議書を7月29日付で事業者に返送すると同時に、東京都教育委員会（以下、都教委と略）宛にも本届出書を連達した。そして、8月31日付で都教委から事業者・市教委に対し、確認調査の実施と遺構等埋蔵文化財の保存に影響があると認められる場合には、工事着手の前に発掘調査を実施するようとの通知があった（4教地管理第1793号）。

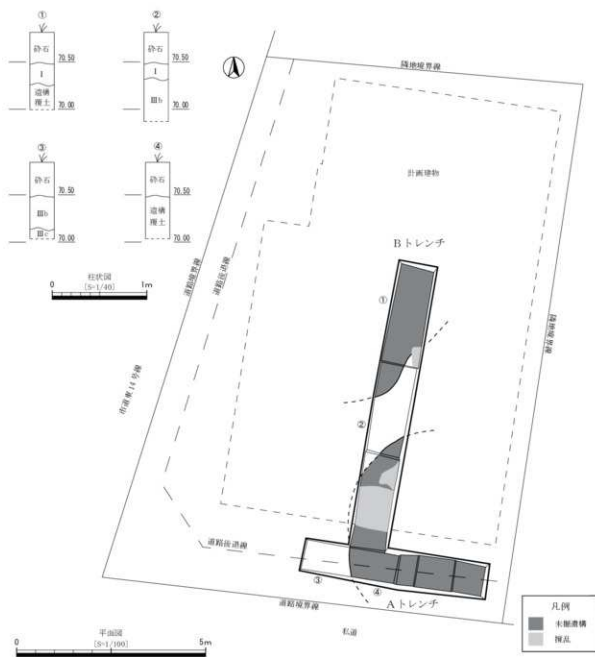
## 第2節 調査の方法と経過

### (1) 確認調査

上記の手続きと並行して市教委は、事業者と確認調査の実施に向け協議を行った。構造物撤去が終了したことを確認の上、8月5日に国分寺市遺跡調査会に対して確認調査実施の指示簿を发出し、8月10日から8月19日の予定で確認調査を実施することとした。建物敷地を対象範囲（第1図）とし、Aトレンチ（幅1.0m×長さ5.0m）とBトレンチ（幅1.0m×長さ7.5m）の調査区2箇所を設けた。調査面積は12.50㎡である。「本町（国分寺村石器時代）遺跡第21次調査」として調査を実施し、経費は公費にて負担した。

現地での調査は、令和4年8月10日に着手した。重機を用いて碎石と表土を取り除き、A・B両トレンチの地表下0.3～0.5mで、縄文土器や石器を多く含む遺物包含層（Ⅲb層）を確認した。そこで、それ以下は人力による掘削調査を行い、出土する遺物は原則トータルステーションを用いながら3次元データを記録して取り上げた。Aトレンチ西側では、縄文時代の遺構が視認できるⅢc層まで掘り下げたところ、遺構の平面プランを明瞭に捉えることができた。一方Bトレンチでは、北側へ行くほどスコリアやローム粒が目立つ土層が広がり、プランは明瞭でなかった。しかし、遺物の出土量は多く、縄文時代の遺構が存在するであろうことが推察された（第1図、図版1）。

そこで、8月22日に事業者と市教委は、今後の埋蔵文化財の取り扱いについて現地で再協議し、確認調査で遺構が把握された部分を中心に調査対象範囲を絞り込み、事業者が費用を負担して行う本発掘調査を実施することとした。



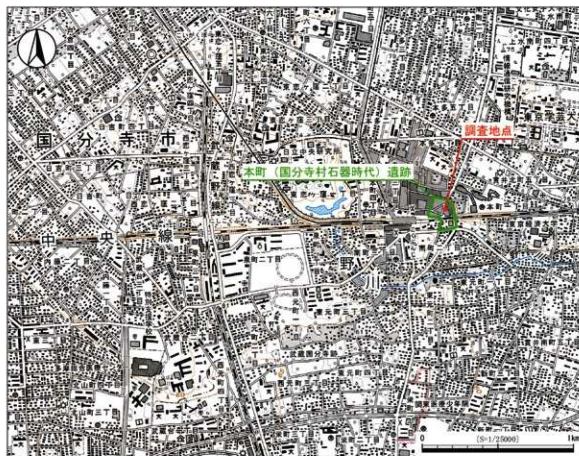
第1図 確認調査（第21次調査）調査区全体図・土層柱状図

## (2) 本発掘調査と整理調査

令和4年10月20日付で事業者・市教委・調査請負会社の間で「国分寺市本町2丁目新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を締結し、10月24日から10月31日まで本発掘調査を実施した。なお、調査次数は確認調査と区別するため「本町（国分寺村石器時代）遺跡第22次調査」とし、調査に係る図面・写真・遺物等の管理を図った。調査は、文化財保護法第99条に基づき市教委の職員が担当し、現地での調査から出土品等整理作業および報告書の作成業務を含めた全般的な支援業務を、トキオ文化財株式会社が担う体制で臨んだ。

調査区は、遺跡に影響する建物基礎範囲をもとに設定した。また、確認調査である第21次調査区の一部を東西に拡張した形であったため、確認調査で設定した調査区は埋め戻さずに重機にて拡張を行った。掘削限界深度は建築計画の設計深度に基づいて、70.03mとした。本発掘調査に伴い拡張した調査区の面積は14.94㎡で、確認調査区を合わせた調査総面積は27.44㎡である。

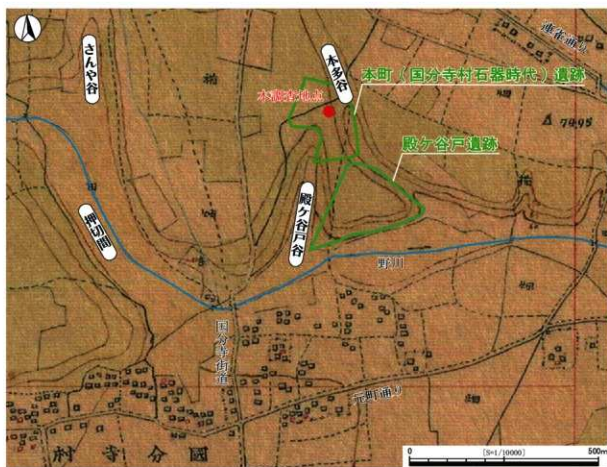
発掘調査は、表土を重機で掘削した後、遺構確認面は人力で精査を行った。各遺構は限界深度まで人力にて掘削を行い、平面実測・断面実測・写真撮影等の記録作業を行った。平面実測および遺物出土地点の記録に際しては、トータルステーションによる3次元測量にて記録を行った。測量基準は世界測地系公共標値を用い、標高はT.P.（東京平均海面）の値を使用した。また、便宜的に調査区内に世界測地系を基準とした5m×5mのグリッドを設定し、南北をアルファベット、東西をアラビア数字で表記した（第8図）。調査終了後、発生土の養生を行い、現地での調査を終了した（図版2～4）。



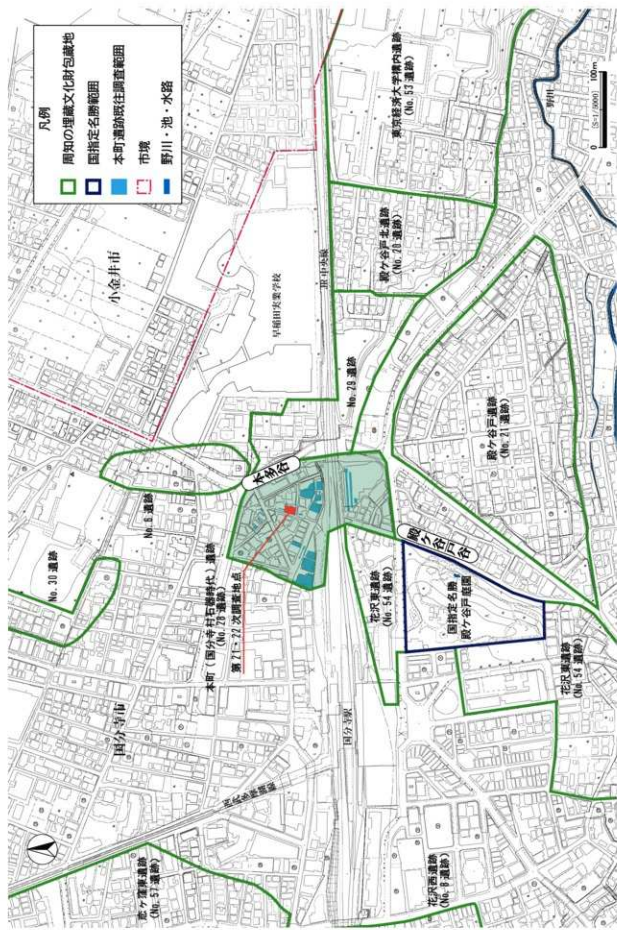
第2図 本町（国分寺村石器時代）遺跡と調査地点の位置〔国土地理院2.5万分の1地形図に加筆〕



第3図 野川流域の主な旧石器・縄文時代遺跡



第4図 調査地点周辺の旧地形〔明治前期測量2万分1フランス式彩色地図に加筆〕



第5図 本町 (国分寺村石器時代) 遺跡と周辺遺跡

第1表 周辺遺跡一覧表

遺跡No.	遺跡名	種別	所在地	時代
2	志ヶ窪遺跡	集落跡	西志ヶ窪一丁目 東志ヶ窪一丁目、三丁目	旧石器・縄文(早・中・後)・中世
3	志ヶ窪南遺跡	集落跡	西志ヶ窪一丁目、 東志ヶ窪一丁目、泉町一・二丁目	旧石器・縄文(早・中)
5	羽根沢遺跡	集落跡	東志ヶ窪一丁目	旧石器・縄文(早・中)
6	No.6遺跡	散布地 (包蔵地)	本町一・二丁目、本多一丁目	縄文(中)
7	多摩岡坂遺跡	集落跡	内藤一・二丁目	旧石器・縄文・奈良
8	花沢西遺跡	集落跡	南町三丁目、本町四丁目、 泉町一丁目、東志ヶ窪一丁目	旧石器・縄文・弥生
9	日影山遺跡	散布地	泉町二丁目、西志ヶ窪一丁目	旧石器・縄文(中)・奈良・平安
11	多善窪遺跡	集落跡	西元町二丁目・四丁目	旧石器・縄文(中)
18	八幡前遺跡	散布地 (包蔵地)	東元町三丁目	縄文(中・後)
19	武蔵国分寺跡	集落跡・ 道跡跡	西元町一～四丁目、東元町二～四 丁目、泉町一～三丁目	旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世
20	殿ヶ谷戸北遺跡	集落跡	南町一丁目	旧石器・縄文(早・中)
21	殿ヶ谷戸遺跡	集落跡	南町二丁目、東元町一・二丁目	旧石器・縄文(早・中)
28	本町(国分寺村石器時代)遺跡	集落跡	本町二丁目、南町二丁目	旧石器・縄文(中)・奈良・平安
30	No.30遺跡	散布地 (包蔵地)	本多一丁目、本町二丁目	縄文・奈良・平安
53	東京経済大学構内遺跡	散布地 (包蔵地)	南町一丁目	旧石器・縄文(早・中)
54	花沢東遺跡	集落跡	南町二・三丁目	旧石器・縄文・奈良・平安
57	志ヶ窪東遺跡	集落跡	本町四丁目、東志ヶ窪一～三丁目	旧石器・縄文(中)・奈良・平安
府中市 5	武蔵台遺跡	集落跡	府中市武蔵台二丁目	旧石器・縄文(早・中)・奈良・平安
府中市 33	武蔵国分寺関連(武蔵台東)遺跡	集落跡	府中市武蔵台二丁目	旧石器・縄文(早・中)・奈良・平安
小金井市 1	貫井遺跡	集落跡	小金井市貫井南三丁目	旧石器・縄文(早・中・後)

調査経過は以下のとおりである。

10月24日 重機・仮設トイレ搬入。表土掘削後、重機搬出。竪穴建物SI30・31J検出全景写真を撮影。

10月25日 竪穴建物SI30・31J調査開始。

10月26日 竪穴建物SI30・31J遺物出土状況写真を撮影。

10月28日 竪穴建物SI30・31J完掘全景写真を撮影。調査区壁面土層断面写真を撮影・記録。

10月31日 竪穴建物SI30・31J調査完了。仮設トイレ搬出。発生土の養生を行い、現地調査完了。

以後、11月1日よりトキオ文化財株式会社聖蹟整理事務所にて整理作業を行い、令和5年10月31日本報告書発行をもって全ての調査を終了した。



## 第2章 調査地区の概観

### 第1節 地理的環境

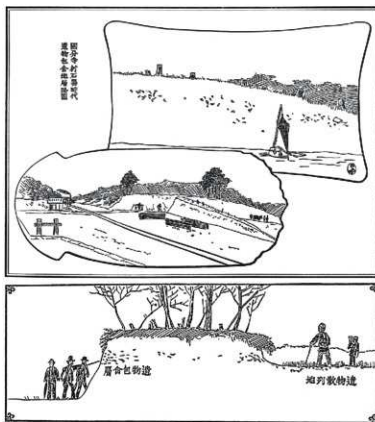
調査地点は、周知の本町(国分寺村石器時代)遺跡(国分寺市No.28遺跡)に該当し、国分寺駅の東約300mに位置し、標高70.8mの武蔵野段丘面上に立地する(第2図)。

付近一帯の地形は、関東平野の南西部を占める武蔵野台地の南端部で、南方の多摩川と沖積低地に向かって古多摩川の流路沿いに河岸段丘が発達している。東西を横断する通称「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境に、北方高位(標高70~90m)の武蔵野段丘面と南方低位(55~66m)の立川段丘面に区分され、その比高差は5~16mを有する。国分寺崖線下には現在でも湧水点が点在し、それらの湧水を集めて崖線に沿うように野川が東流し、小金井・調布・三鷹・狛江の各市を通過して、約20km先の世田谷区二子玉川付近で多摩川に合流する。調査地点周辺はその源流域にあたり、豊富な湧水源が武蔵野段丘の縁辺部を侵食して、大小の開析谷を複数形成している(第3図)。

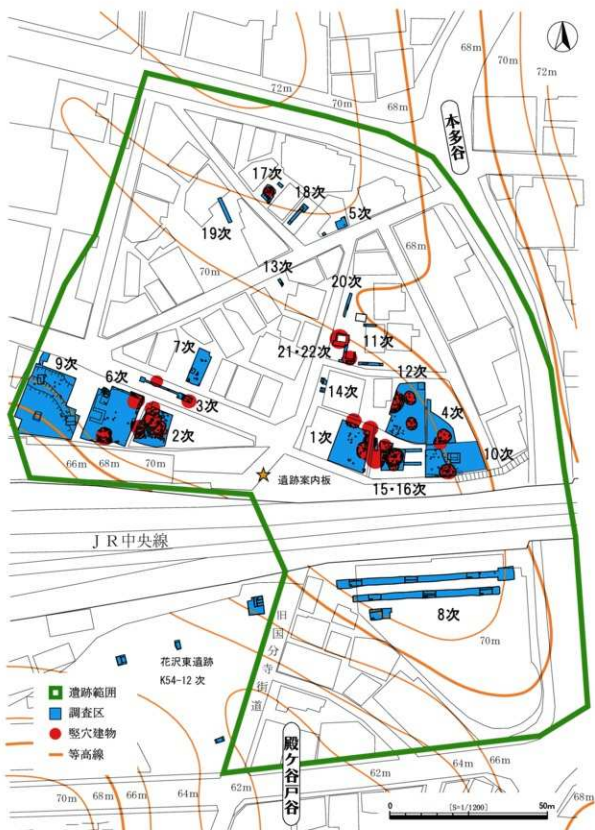
本遺跡は、南西側を殿ヶ谷戸谷、東側を本多谷に挟まれ、南方に張り出した舌状台地の付根部分に立地する。舌状台地は明治22年(1889)に甲武鉄道(現JR中央線)が敷設された際に、東西方向に切通されており、南北に分断された北側に調査地点は位置している(第4・5図)。

### 第2節 歴史的環境

本遺跡周辺における遺跡の分布は、国分寺崖線に沿って武蔵野段丘上に切れ目なく続く(第3・5図、第1表)。西から多摩蘭坂遺跡(国分寺市No.7遺跡)、武蔵台遺跡(府中市)、武蔵台東遺跡(府中市)、多喜窪遺跡(国分寺市No.11遺跡)、花沢東遺跡(国分寺市No.54遺跡)、国分寺市No.6遺跡、殿ヶ谷戸遺



第6図 大野延太郎のスケッチ〔大野・鳥居1894〕



第7図 本町（国分寺村石器時代）遺跡全体図

第2表 本町（国分寺村石器時代）遺跡調査履歴表（明治26年～令和4年度）

調査 次数	西暦	年	原因	住所表示 (地番)	内容	担当者	遺物 遺跡	縄文時代の遺構(段) 【遺構番号】/出土遺物 その他の時代の遺物	文献
	1893	明治26							井上喜久郎 1893 「五川沿岸遺跡探 見の記」『東京人類学雑誌』93号
	1894	明治27							大野延太郎、鳥居龍藏 1894・1895 『武蔵国北多摩郡国分寺村石器時代 遺跡』『東京人類学会雑誌』102・ 106・107・111号
1	1979	昭和54	ビジネス ホテル	本町2-4-5	築屋	広瀬	19	短穴建物(4)【S11】～S14】、土坑(1)【S81】/土器・石器	未報告
2	1982	昭和57	集合住宅	本町2-2-15	築屋	広瀬	15	短穴建物(6)【S17】～S12】、土坑(4)【S82】～S85】、埴輪(2) 【S8】、S9】、小穴(20)/土器・石器、旧石器時代(石器)	未報告
3	1983	昭和58	下水道	本町2-2	築屋	広瀬	3	短穴建物(2)【S113】・S114】、厨外産物(4)【S11】～S14】 /土器(中期)	志分第8(1997)47～54頁
4	1986	昭和61	ビル	本町2-4-10	築屋	広瀬	9	短穴建物(2)【S113】・S116】/土器・石器	未報告
5	1989	平成1	ビル	本町2-7-3	築屋	広瀬	2	小穴(2)/土器・石器	未報告
6	1989	平成1	ビル	本町2-2-14	築屋	上村	11	短穴建物(2)【S117】・S120】、土坑(4)【S86】～S89】、小穴(20) /土器・石器・縄	未報告
7	1985	平成7	集合住宅	本町2-3-3	築屋	上村	13	埴輪(3)【S5】～S7】、集石(1)【S51】、小穴(7)/土器・ 石器・縄	未報告
8	1985	平成7	集合住宅	南町2-17- 18他	築屋	上村	2	小穴(3)/土器・石器	未報告
9	1988	平成10	集合住宅	本町2-2-12 (2-266-1)	築屋	上村	9	集石(1)【S82】、小穴(18)/土器・石器・縄、古代以降(陶 器・金属製品)	未報告
10	2001	平成13	事務所	本町2-4-10 (2-322-18)	築屋	上村	9	短穴建物(1)【S121】、小穴(14)/土器・石器・縄、旧石器 時代(燧石)	未報告
11	2001	平成13	個人宅	本町2-5-4 (2-324-119)	築屋	上村	1	土坑(1)【S810】、小穴(5)/土器・石器・縄、古代以降(瓦)	平成22年度年報(2012)51頁
12	2002	平成14	集合住宅	本町2-4-8 (2-324-8)	築屋	上村	26	短穴建物(3)【S122】～S124】、土坑(1)【S811】、小穴(24) /土器(土偶舎)、石器・縄	未報告
13	2007	平成19	個人住宅 兼店舗	本町2-3	確認	小野木	1	土器・石器	平成19年度年報(2009) 32・33頁
14	2016	平成28	集合住宅	本町2-4-6	確認	増井	1	小穴(4)/土器	平成28年度年報(2018)104～107頁
15	2017	平成29	集合住宅	本町2-4-2	確認	増井	4	短穴建物(1)【S123】の東側1号、小穴(2)/土器・石器・縄	平成29年度年報(2019)77～80頁
16	2017	平成29	集合住宅	本町2-4-2	確認	増井	10	短穴建物(4)【S123】～S128】、小穴(4)/土器・石器(石輪 舎)、縄	未報告
17	2018	平成30	個人住宅	本町3-7-5 (2-30-53)	築屋	依田	5	柄取形燧石建物(1)【S129】、土坑(1)【S812】/土器・石器・縄	平成30年度年報(2020)100～116頁
18	2019	令和1	事務所	本町2-7-4	確認	依田	2	不明遺構(1)【S811】/土器・石器・縄	令和元年度年報(2021)64～69頁
19	2020	令和2	集合住宅	本町2-8-2	確認	依田	1	土器	令和2年度年報(2022)90・100項
20	2021	令和3	店舗兼 事務所	本町2-5 (2-324-85)	確認	依田	1	土器・石器・縄	未報告
21	2022	令和4	事務所兼 集合住宅	本町2-5 (2-324-120)	確認	平塚	2	1	本報告
22	2022	令和4	事務所兼 集合住宅	本町2-5 (2-324-120)	築屋	平塚	4	短穴建物(2)【S130】・S131】/土器・石器・縄	本報告

跡(国分寺市No.21遺跡)、殿ヶ谷戸北遺跡(国分寺市No.20遺跡)、東京経済大学構内遺跡(国分寺市No.53遺跡)等の旧石器時代～縄文時代の集落遺跡が連続し、小金井市の貫井遺跡へと続く。本多谷の最奥部には国分寺市No.30遺跡があり、野川源流域の押切間・恋ヶ窪谷・さんや谷には、恋ヶ窪遺跡(国分寺市No.2遺跡)、羽根沢遺跡(国分寺市No.5遺跡)、恋ヶ窪東遺跡(国分寺市No.57遺跡)、日影山遺跡(国分寺市No.9遺跡)、恋ヶ窪南遺跡(国分寺市No.3遺跡)、花沢西遺跡(国分寺市No.8遺跡)等の縄文時代の集落遺跡が連続する。

これに対し、段丘下は、縄文時代後期の八幡前遺跡(国分寺市No.18遺跡)と武蔵国分寺跡(国分寺市No.19遺跡)を除けば、微小な遺跡が散見される程度である。

なお、殿ヶ谷戸遺跡は、本町(国分寺村石器時代)遺跡から南に延びて三角形に張り出した舌状台地の平坦面に位置しており、舌状部の付根に近い遺跡北域で縄文時代中期の堅穴建物3棟が検出されている。本遺跡の集落と有機的な関係性が考えられる(第4図・第23図)。

本遺跡の発見は、明治22年(1889)に新宿-立川間で開通した甲武鉄道(現JR中央線)の国分寺駅周辺において、明治26年(1893)に井上喜久治氏と帝国大学(現東京大学)の鳥居龍藏氏によって遺

跡の存在が確認されたことに始まる。井上氏は「玉川沿岸遺跡探見の記」において「汽車國分寺に停車す。夫より其旧蹟たる同村に至らんと線路の踏切を越ゆ。其続き一つの丘陵を切開きたる處あり茲にて縄文土器の破片を得しかば尚ほ仔細に其崖を見るに果して石世期の遺物たる土器並びに石器を得たり」と述べた(井上1893)。また翌年には、鳥居氏が同大学の大野延太郎(雲外)氏と調査を行って「武蔵国北多摩郡國分寺村石器時代遺跡」と題する論文を発表し、本遺跡を石器製作跡と推定したことで世に知られる遺跡となった(大野・鳥居1894、第6図)。またこの論文では、現在、考古学の学術用語として定着している「遺物包含層」の概念が規定されるなど、日本考古学史上極めて重要な遺跡として位置付けられる。遺跡名を「本町(國分寺村石器時代)遺跡」として登録したのは、こうした歴史的背景を鑑みての故である。

市教委では、昭和54年度(1979)のビジネスホテル建設に伴う調査(第1次調査)を嚆矢として、令和5年度(2023)現在までに開発事業に先立つ調査を20地点において実施しており、縄文時代中期の集落跡であることが判明している。これまでの調査で検出された縄文時代の竪穴建物は27棟を数え、それらはいずれも井上氏らが土器・石器を採集したJR中央線線路に程近い遺跡の中心域に位置する。ただし、遺跡範囲の北端における第17次調査地点(依田2020)で、中期末葉の柄鏡形敷石建物が1棟発見されており、それまでの集落の空間規制が緩んで拡散した様態と推察される(第7図、第2表)。

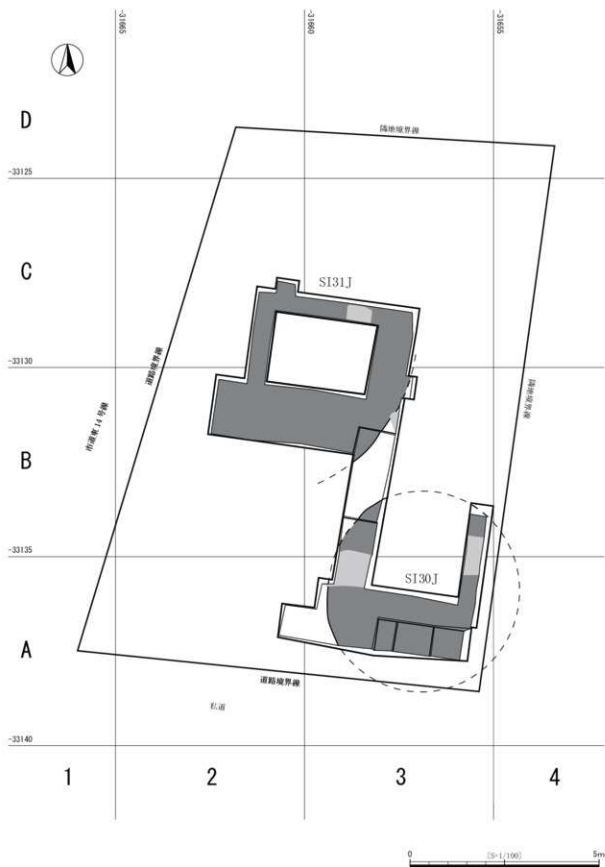
### 第3節 層序

調査地点は、開析谷に画された武蔵野段丘面上にあり、北と東へ向かって緩やかに傾斜している。

本調査地点の層序は、國分寺市の層序に準拠している。國分寺市域におけるローム層より上位の層序は、表土(盛土・耕作土含む)をⅠ層、表土下の黒褐色土を黒色味が強い上層(Ⅱ層)と、暗褐色でローム層への漸移層を含む下層(Ⅲ層)とし、さらにⅢ層をⅢa層・Ⅲb層・Ⅲc層に細分している。市内における一般的な縄文時代の遺構確認面であるⅢc層を把握できたのは、確認調査時のAトレンチ西側部分だけである(第1図)。

なお、本発掘調査においては、建築計画の設計深度の範囲内で調査を実施したことから、検出遺構の床面まで掘削調査をすることができなかった。

- Ⅰ層 黒褐色土。攪乱されたⅢ層土が混在する耕作土。砕石下に位置し、層厚15～20cmを測る。
- Ⅲb層 暗褐色土。下部に行くほど褐色味が強くなる。縄文時代の遺物包含層。
- Ⅲc層 にぶい黄褐色土。ローム漸移層。



第8図 本発掘調査（第22次調査）調査区全体図

## 第3章 検出された遺構と遺物

### 第1節 調査の概要

今回の調査で検出された遺構は、縄文時代の竪穴建物2棟（竪穴建物S130・31J）である。掘削限界深度（標高70.03m）まで掘削を行ったが、床面まで到達しなかったため、内部施設は検出されていない。

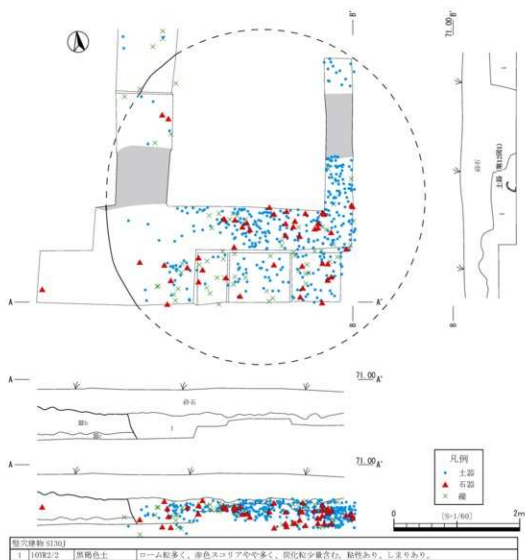
出土遺物は、確認調査（第21次調査）を含めて、総点数1,819点が出土した（第11表）。内訳は、縄文土器1,423点（うち土製円盤13点）、焼成粘土塊1点、石器115点、礎266点、近代以降の遺物14点（陶器土瓶1点、磁器皿1点、磁器碗3点、土師質土器七厘7点、不明土師質土器1点、銭貨1点）である。縄文土器は中期の勝坂3式や加曽利E3式が多く出土しており、石器は半数近くを打製石斧が占める。

### 第2節 縄文時代

#### （1）竪穴建物

竪穴建物S130J（第9～16図、第3～6表、図版2-3～8、図版3-1～6）

位置・検出状況 A・B-3・4グリッドに位置する。北西と南西側の一部で上端を検出した。北東から



第9図 竪穴建物 S130J 実測図・出土遺物分布図

西側中央にかけて溝状の擾乱に切られる。

**規模・形態** 検出された上端から想定した竪穴建物の規模は、径5.0～5.5mである。表土直下からの深さは0.4m程を測り、また、ボーリングステッキを用いた深度探査により、掘削底面から0.2m程で床面に到達することを確認している。平面形は円形を呈するものと考えられる。側壁は、やや開きながら立ち上がる。

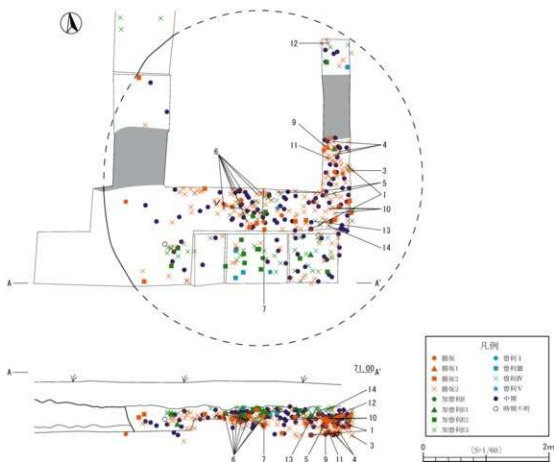
**覆土** 現況で暗褐色土を基調とした層を1層確認した。自然堆積層（Ⅲb層）に比べ、スコリアの含有量が多くなる傾向にある。

**内部施設** 調査が床面にまで及んでいないため、判然としない。

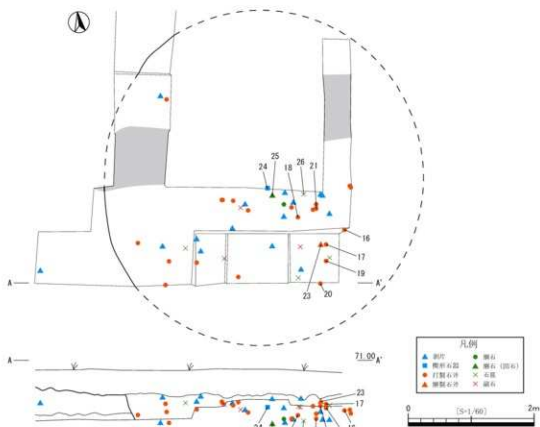
**出土遺物** 出土遺物は、縄文土器565点（うち土製円盤10点）：阿玉台式1点・勝坂1式1点・勝坂2式13点・勝坂3式282点・勝坂式細別時期不明17点・曾利Ⅰ式1点・曾利Ⅱ式2点・曾利Ⅲ式4点・曾利Ⅳ式6点・曾利Ⅴ式1点・加曾利E1式5点・加曾利E2式20点・加曾利E3式63点・加曾利E式細別時期不明1点・中期細別時期不明148点・焼成粘土塊1点、石器49点：楔形石器1点・二次加工剥片1点・剥片14点・打製石斧23点・磨製石斧1点・石皿4点・磨石1点・磨石（凹石）1点・蔽石3点、礫61点である。

遺物全体の分布をみると、平面分布は、竪穴建物中心部から南東部にかけて集中する傾向がみられ、西側では希薄となる。垂直分布は、覆土上部から下部にかけて途切れることがない。縄文土器の型式別では、平面分布に有意な傾向は見受けられないが、垂直分布では覆土上部に加曾利E式、下部に勝坂式（主に勝坂3式）が集中する傾向が確認できる。縄文土器15点、石器11点を図示した。

1は勝坂3式（新地平編年9a期）の円筒形深鉢で、口縁部と底部の一部を欠損するが、ほぼ完形に近い。口縁部無文帯と胴上部文様帯、胴下部～底部地文帯の3段によって構成され、口縁部と胴上部は沈線、胴上部と胴下部は横位隆帯によって区画している。無文の口縁部はやや肥厚し、胴上部から隆



第10図 竪穴建物SI30J出土土器分布図

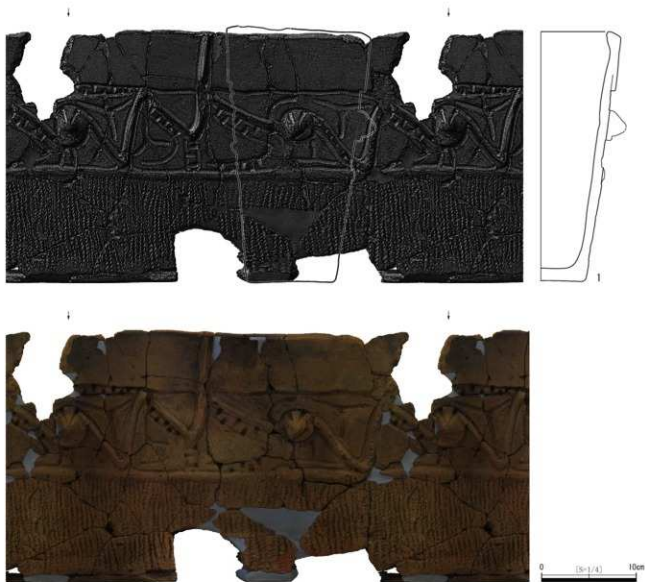


第11図 竪穴建物S130J出土石器分布図

帯が伸びて口唇部まで突き抜けている部分がある。胴上部の文様帯には、刻みで加飾された2単位の渦巻状小突起の間を波状の隆帯でつなぎ、三角状区画を横帯させる。区画内には交互刺突文、三叉文を施文する。胴下部～底部は縦位捺糸文Lが施される。2は勝坂3式(9a期)の深鉢口縁部～胴部である。口縁部無文帯と胴上部文様帯、胴下部～底部地文帯の3段によって構成されるものと思われる。口縁部と胴上部は粗い交互刺突のある隆帯、胴上部と胴下部以下は低い横位隆帯によって区画される。無文の口縁部は内湾し、4単位の小突起から交互刺突のある縦位隆帯が垂下する。胴上部は太い刻みのある隆帯により円形や波状のモチーフが表出され、三角状の区画内には三叉文、縦位集合沈線文が施文される。胴下部以下は地文の縄文RLがみられる。3は勝坂3式(9a期)と思われる深鉢胴部～底部である。胴部は地文0段多条縄文RLが施文され、等間隔に縦位に磨り消されている。底部付近は横位ヘラナデされる。4は勝坂3式(9a期)の円筒形深鉢の口縁部～胴部である。口縁部無文帯と胴上部文様帯、胴下部～底部地文帯の3段によって構成されるものと思われる。口縁部と胴上部は沈線、胴上部と胴下部以下は刻みのある横位隆帯によって区画される。無文で幅広の口縁部は、口唇部が内折する。胴上部は刻みのある隆帯とそれに沿う沈線による渦巻文で区画され、区画内には三叉文が施文される。胴下部以下は地文捺糸文Rがみられる。5は勝坂3式(9a期)の深鉢口縁部～胴上部である。口縁部と胴上部は横位沈線によって区画される。口縁部は無文帯で、口唇部が内折する。胴上部は刻みと交互刺突のある隆帯とそれに沿う沈線による渦巻文で区画され、区画内には周囲を刻みで加飾された三叉文と斜行平行沈線が配される。6は勝坂3式(9a期)の深鉢胴部で、半截竹管による刺突・刻み・交互刺突・綾杉状刺突・三角押文のある縦位隆帯(一部蛇行)によって大きく区画している。区画内は沈線による方形の小区画や、三叉文、縦位沈線文間に刻み・交互刺突文・綾杉状刺突文が施文される。また、内面の下部に煮焦げが付着する。7は勝坂3式(9a期)の深鉢胴部である。口縁部と胴上部を半截竹管による交互刺突のある横位隆帯によって区画している。胴上部は刻みまたは綾杉状刺突のある隆帯によって区画され、区画内に沈線による渦巻文、三叉文がみられる。胴上部と胴下部以下は刻みのある



隆帯と沈線によって区画し、胴下部は地文の縦位燃糸文Lが施文される。8は勝坂3式（9a期）の深鉢の大型突起で、外面に刻み、三叉文、円形の凹文が施文される。また、内面隆帯上にも刻みが施される。9は勝坂3式（9b～9c期）の深鉢口縁部で、口縁部と胴部を横位沈線によって区画する。口唇部は内折し、口唇部の小突起から垂下する縦位鎖状隆帯は胴部まで下る。隆帯脇には3条の縦位平行沈線文が施文される。10は勝坂3式（9c期）の深鉢口縁部～頸部で、口縁部文様帯と頸部無文帯は棒状工具による太い刻みと、ヘラ状工具による綾杉状刻みのある横位隆帯によって区画される（隆帯による渦巻状突起部は欠損か）。口縁部は沈線による横帯区画、区画内に綾杉状刺突文・連続刺突文・沈線による円形文が施文される。11は勝坂3式（9期）の浅鉢口縁部～胴部である。口唇部が肥厚し、口唇部直下に横位凹線が施文される。また、内外面に赤彩が施される。12は加曾利E2式期（11c期）連弧文土器の深鉢の小波状口縁部である。口唇に平行する2条の沈線内に円形刺突を交互に施文し、その下部に弧状沈線文、地文条線文がみられる。13は曾利IV式（12b期）の深鉢胴部で、大きな円形刺突のある隆帯とそれに沿う沈線が胴括れ部を巡り以下に垂下する。地文に細い半截竹管内側による条線文が施文される。14は加曾利E3式（12b期）の深鉢の緩やかに内湾する口縁部で、地文に細い縦位条線文が施文される。15は阿玉台式と思われる深鉢片を利用した土製円盤である。打ち欠き後、一部を研磨しており、文様は縦位隆帯がみられる。



第12図 竪穴建物 S130J 出土遺物実測図 (1)



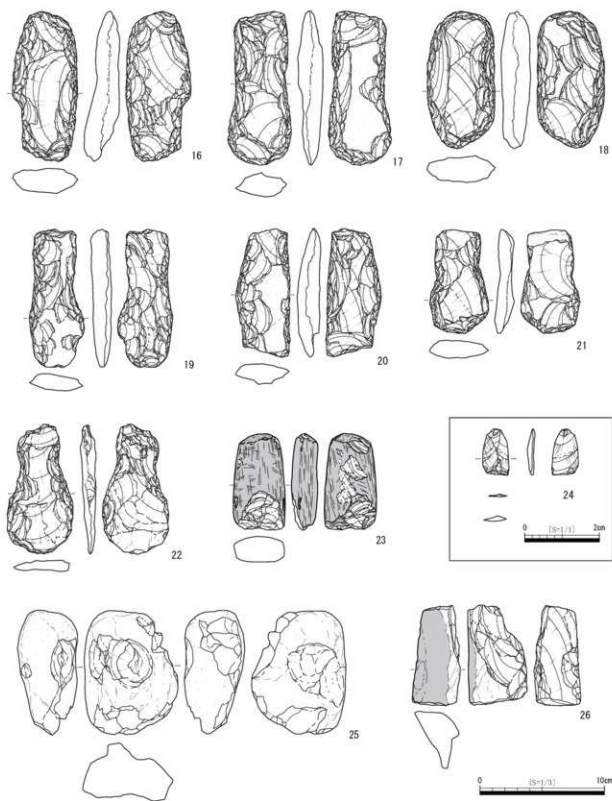
第 13 图 竖穴建物 SI30J 出土遺物実測图 (2)



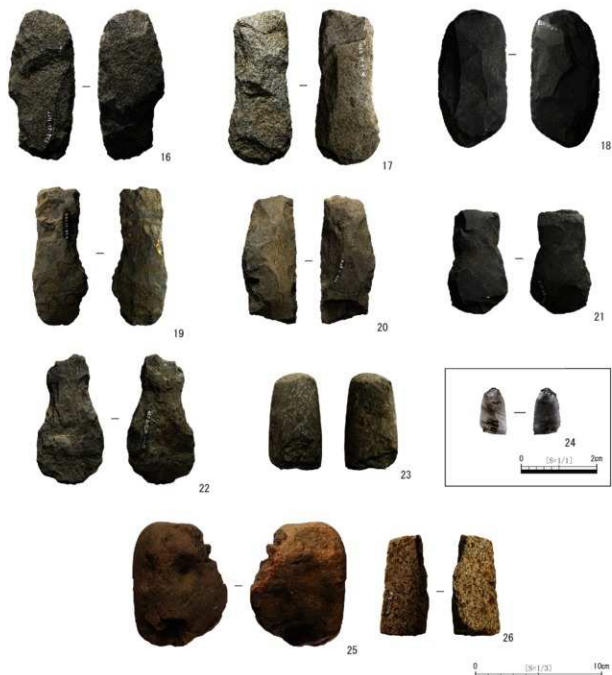
第 14 図 竪穴建物 SI30J 出土遺物実測図 (3)

16～22は打製石斧である。16～20は短冊形で、21・22は楕形を呈する。23は緑色片岩の磨製石斧で、ほぼ全面に研磨がみられ、基部には敲打痕が認められる。24は黒曜石の楔形石器である。25は砂岩の磨石で、正面・左側面・裏面に凹みが認められることから、凹石としての利用も考えられる。26は閃緑岩の石皿で、正面に平坦な作業面がみられる。

廃絶時期 覆土下部に勝坂3式が多く見受けられることから、勝坂3式期の可能性が考えられる。



第 15 图 竖穴建物 SI30J 出土遺物実測図 (4)



第16図 竪穴建物S130J出土石器写真

第3表 竪穴建物S130J出土土器観察表(1)

検出番号	出土層位	時期	器形・部位 種別	器形・文様の特徴	①色裏 ②胎土 ③焼成	備考
13-1	竪土 下部	縄文3 (新地平) 9a期	深鉢 ほぼ完形	内側形深鉢、口縁部と胴部を沈線によって区画、無文で肥厚する口縁部、胴上部と下部を横位隆帯によって区画、胴上部は割みのある隆帯が波状区画を形成し、割突のある小突起を配置した部分では溝巻状に取りつく2単位の文様構成、区画内に交互割突文、三叉文を施す。胴下部は地文無文。	①外面：暗褐色、にぶい褐色、褐色 ②内面：にぶい黄褐色、黄褐色 ③裏石、石灰、角閃石、砂粒 ④良好	
13-2	竪土	縄文3 (新地平) 9a期	深鉢 口縁部1/2 胴部1/2弱	無文の口縁部は内溝、口縁と胴部を交互割突のある隆帯で区画、口縁部には4単位の割みのある縦位隆帯による小突起、胴上部は割みのある隆帯による文様と三叉文、縦位集合沈線文、胴下部は織文、地文。	①外面：明赤褐色、暗褐色、黒褐色 ②内面：明赤褐色、にぶい黄褐色 ③裏石、石灰、シルト岩粒、砂粒、小石 ④良好	内外器面 欠れ
13-3	竪土 下部	縄文3 (新地平) 9a期か	深鉢 胴部～底部 ほぼ完形	胴部地文り段多集織文、L、等間隔に縦位に磨り滑される、底部付近へラナツ	①外面：暗褐色、明赤褐色 ②内面：黒褐色、暗褐色 ③裏石、石灰、角閃石、砂粒 ④良好	
13-4	竪土 下部	縄文3 (新地平) 9a期	深鉢 口縁部少量 胴部1/4弱	内側形深鉢、口縁部と胴部を沈線によって区画、口縁部内径、口縁部幅広の無文、胴上部と下部を割みのある横位隆帯とそれに沿う沈線によって区画、胴上部割みのある隆帯による連続溝巻文、三叉文、胴下部は地文無文、Lを縦位施文。	①外面：にぶい黄褐色、暗褐色、黒褐色、褐色 ②内面：にぶい黄褐色、黄褐色 ③裏石、石灰、雲母、角閃石、砂粒 ④良好	

第4表 竪穴建物 S130J 出土土器観察表 (2)

神図番号	出土位置	時期	器形・部位 残存率	器形・文様の特徴	①色調 ②胎土 ③焼成			備考
					①色調	②胎土	③焼成	
13-5	竪土 下部	慶応3 (新地中) 9a期	深鉢	口縁部と胴部を沈線によって区画。口唇部内折。口縁部無文。胴上部刻みと交互斜突のある隆帯とそれに沿う沈線による湯巻文。三叉文と断面に刻み。斜行平行沈線文	①外面：緑褐色、にじい黄褐色、明赤褐色 ②胎土：緑褐色、にじい黄褐色 ③良好	①外面：緑褐色、にじい黄褐色、明赤褐色 ②胎土：緑褐色、にじい黄褐色 ③良好	①外面：緑褐色、にじい黄褐色、明赤褐色 ②胎土：緑褐色、にじい黄褐色 ③良好	
			口縁部～胴上部 1/4					
14-6	竪土 下部	慶応3 (新地中) 9a期	深鉢 胴部 1/2 割	半軌竹管による刻み・刻み・交互斜突・線状刻突・三角押文のある縦位隆帯（一部軌行）によって区画。区画内沈線文による方位区画。沈線文間に刻み・交互斜突・線状刻突・三叉文	①外面：褐色、緑褐色 ②胎土：にじい黄褐色、黒褐色 ③良好	①外面：褐色、緑褐色 ②胎土：にじい黄褐色、黒褐色 ③良好	①外面：褐色、緑褐色 ②胎土：にじい黄褐色、黒褐色 ③良好	内面下部 裏面下部 付着
			口縁部と胴部の間に交互斜突のある隆帯が近る。胴上部と下部を刻みと沈線によって区画。胴上部刻みまたは線状刻突のある隆帯による区画。区画内沈線による湯巻文、三叉文。胴下部地文無文とし縦位無文					
14-7	竪土 下部	慶応3 (新地中) 9a期	深鉢 胴部 1/4 強	口縁部と胴部の間に交互斜突のある隆帯が近る。胴上部と下部を刻みと沈線によって区画。胴上部刻みまたは線状刻突のある隆帯による区画。区画内沈線による湯巻文、三叉文。胴下部地文無文とし縦位無文	①外面：褐色、緑褐色、黒褐色 ②胎土：にじい黄褐色、黒褐色 ③良好	①外面：褐色、緑褐色、黒褐色 ②胎土：にじい黄褐色、黒褐色 ③良好	①外面：褐色、緑褐色、黒褐色 ②胎土：にじい黄褐色、黒褐色 ③良好	
			口縁部と胴部の間に交互斜突のある隆帯が近る。胴上部と下部を刻みと沈線によって区画。区画内沈線による湯巻文、三叉文。胴下部地文無文とし縦位無文					
14-8	竪土 (新地中) 9a期	慶応3 (新地中) 9a期	口縁部 破片	楕円形の大形欠片。刻み、三叉文、円形凹文	①外面：緑褐色、褐色 ②胎土：緑褐色、にじい黄褐色、明赤褐色 ③良好	①外面：緑褐色、褐色 ②胎土：緑褐色、にじい黄褐色、明赤褐色 ③良好	①外面：緑褐色、褐色 ②胎土：緑褐色、にじい黄褐色、明赤褐色 ③良好	
			口縁部と胴部を横位沈線によって区画。口唇部内折。小突起以下は口縁部縦位状沈線、隆帯間に3条の縦位平行沈線文					
14-9	竪土 下部	慶応3 (新地中) 9b～c期	深鉢 口縁部 破片	口縁部と胴部を横位沈線によって区画。口唇部内折。小突起以下は口縁部縦位状沈線、隆帯間に3条の縦位平行沈線文	①外面：にじい黄褐色、黒褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色 ③良好	①外面：にじい黄褐色、黒褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色 ③良好	①外面：にじい黄褐色、黒褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色 ③良好	
			口縁部と胴部を横位沈線によって区画。口唇部内折。小突起以下は口縁部縦位状沈線、隆帯間に3条の縦位平行沈線文					
14-10	竪土 上部	慶応3 (新地中) 9a期	深鉢 胴部 破片	線状無文帯と胴部を横位沈線によって区画。口縁下部線状刻突のある横位隆帯によって区画（隆帯による湯巻文欠部区画）。区画内沈線文による横帯区画。横帯区画内線状刻突文・連続刻突文・沈線による円形文	①外面：黒褐色、緑褐色、明赤褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色 ③良好	①外面：黒褐色、緑褐色、明赤褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色 ③良好	①外面：黒褐色、緑褐色、明赤褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色 ③良好	
			線状無文帯と胴部を横位沈線によって区画。口縁下部線状刻突のある横位隆帯によって区画（隆帯による湯巻文欠部区画）。区画内沈線文による横帯区画。横帯区画内線状刻突文・連続刻突文・沈線による円形文					
14-11	竪土 下部	慶応3 (新地中) 9期	浅鉢 口縁部～胴部 1/4 弱	口唇部厚。外面口唇部直下横位凹線	①外面：緑褐色、黒褐色、にじい赤褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色、にじい赤褐色 ③良好	①外面：緑褐色、黒褐色、にじい赤褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色、にじい赤褐色 ③良好	①外面：緑褐色、黒褐色、にじい赤褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色、にじい赤褐色 ③良好	内外面 赤彩
			口唇部厚。外面口唇部直下横位凹線					
14-12	竪土 上部	加賀利 E2 (新地中) 11c期	深鉢 口縁部 破片	小浅口鉢。外周に沿う2条の沈線内に円形刻文を交互に無文。弱沈線文。地文条線文	①外面：黒褐色、緑褐色 ②胎土：にじい黄褐色、明赤褐色 ③良好	①外面：黒褐色、緑褐色、明赤褐色 ②胎土：黒褐色、石炭、角閃石、砂粒 ③良好	①外面：黒褐色、緑褐色、明赤褐色 ②胎土：黒褐色、石炭、角閃石、砂粒 ③良好	
			小浅口鉢。外周に沿う2条の沈線内に円形刻文を交互に無文。弱沈線文。地文条線文					
14-13	竪土 上部	加賀利 IV (新地中) 12b期	深鉢 胴部 破片	大きな円形刻突のある隆帯とそれに沿う沈線が弱く、内面を若干以下に垂下する。地文は細い半軌竹管内面による条線文	①外面：黒褐色、緑褐色、にじい褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色、にじい褐色 ③良好	①外面：黒褐色、緑褐色、にじい褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色、にじい褐色 ③良好	①外面：黒褐色、緑褐色、にじい褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色、にじい褐色 ③良好	
			大きな円形刻突のある隆帯とそれに沿う沈線が弱く、内面を若干以下に垂下する。地文は細い半軌竹管内面による条線文					
14-14	竪土 上部	加賀利 E3 (新地中) 12b期	深鉢 口縁部 破片	横やかに内湾する口縁部。縦位条線文	①外面：にじい黄褐色、黒褐色 ②胎土：にじい黄褐色、黒褐色 ③良好	①外面：にじい黄褐色、黒褐色 ②胎土：にじい黄褐色、黒褐色 ③良好	①外面：にじい黄褐色、黒褐色 ②胎土：にじい黄褐色、黒褐色 ③良好	
			横やかに内湾する口縁部。縦位条線文					

第5表 竪穴建物 S130J 出土土製品観察表

神図番号	出土位置	時期	器種	寸法 (cm)				重量 (g)	製法加工	文様	①色調 ②胎土 ③焼成			備考
				最大径	最大幅	最大厚	重量 (g)				①色調	②胎土	③焼成	
14-15	竪土	阿玉台式	土製円筒	4.2	2.6	1.1	12.5	打ち欠き一部研磨	縦位隆帯	①外面：褐色、緑褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色 ③良好	①外面：褐色、緑褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色 ③良好	①外面：褐色、緑褐色 ②胎土：緑褐色、黒褐色 ③良好		

第6表 竪穴建物 S130J 出土石器観察表

神図番号	出土位置	種類	石質	寸法 (cm)				重量 (g)	備考
				最大径	最大幅	最大厚	重量 (g)		
15-16	竪土下部	打製石斧	砂岩	12.0	5.3	17.7	177.0	定形、短冊形	
15-17	竪土上部	打製石斧	砂岩	12.3	5.2	2.0	146.4	定形、短冊形	
15-18	竪土下部	打製石斧	ホルンフェルス	10.9	5.5	2.3	196.1	定形、短冊形	
15-19	竪土下部	打製石斧	ホルンフェルス	11.1	4.4	1.5	94.4	定形、短冊形	
15-20	竪土上部	打製石斧	ホルンフェルス	10.3	4.5	1.8	100.2	刃部欠損、短冊形	
15-21	竪土下部	打製石斧	ホルンフェルス	8.3	4.8	1.4	66.4	定形、短冊形	
15-22	竪土	打製石斧	ホルンフェルス	10.3	5.3	1.2	67.5	定形、短冊形	
15-23	竪土上部	磨製石斧	緑色片岩	7.8	4.2	2.2	128.5	刃部欠損。ほぼ全面研磨。基部刻打痕あり	
15-24	竪土下部	楔形石器	黒曜石	1.2	0.7	0.2	0.1		
15-25	竪土下部	磨石 (凹石)	砂岩	10.1	8.1	4.8	412.2	右側面一部欠損。正面・左側面・裏面に一ヶ所ずつ凹みあり	
15-26	竪土下部	石皿	閃緑岩	8.2	2.9	5.6	162.1	断面・正面に平坦な作業面あり	

**竪穴建物S131J**（第17～22図、第7～10表、図版3-7・8、図版4）

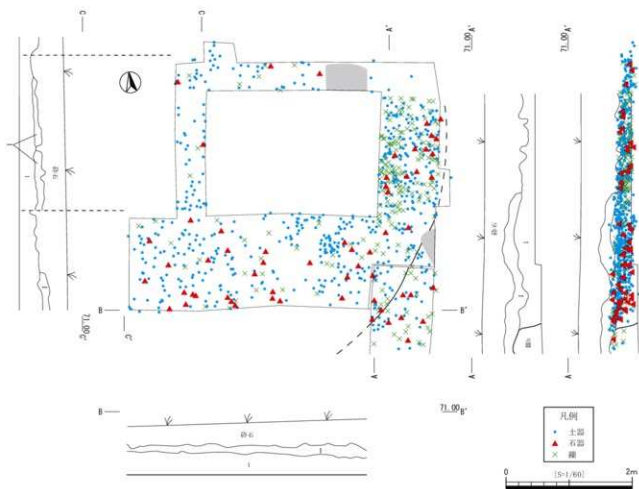
**位置・検出状況** B・C-2・3グリッドに位置する。南東側の一部で上端を検出した。北側と南東側の一部は、攪乱に切られる。

**規模・形態** 竪穴建物の規模は、現状で南東壁際から北西へ4.9mを測る。表土直下から深さ0.4m程掘り下げた掘削底面から、ボーリングステッキを用いた深度探査により、0.2m程で床面に到達することを確認した。平面形は、楕円形を呈すると推測される。側壁は、やや開きながら立ち上がる。

**覆土** 現況で暗褐色土を基調とした層を1層確認した。自然堆積層（Ⅲb層）に比べ、スコリアの含有量が多くなる傾向にある。

**内部施設** 調査が床面にまで及んでいないため、判然としない。

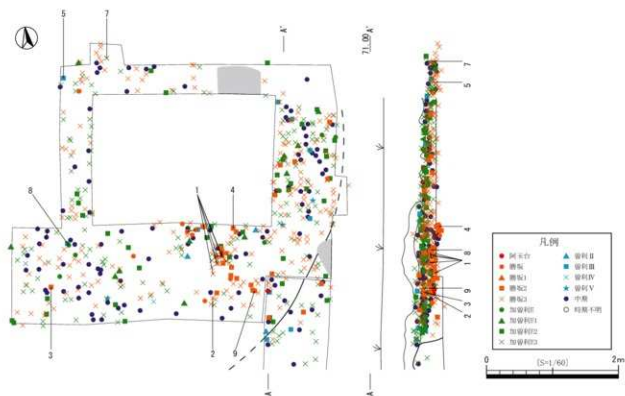
**出土遺物** 出土遺物は、縄文土器722点（うち土製円盤3点）：阿玉台式1点・勝坂1式1点・勝坂2式38点・勝坂3式260点・勝坂式細別時期不明9点・曾利Ⅰ式1点・曾利Ⅱ式5点・曾利Ⅲ式8点・曾利Ⅳ式4点・曾利Ⅴ式5点・加曾利E1式13点・加曾利E2式56点・加曾利E3式190点・加曾利E式細別時期不明8点・中期細別時期不明123点、石器56点：二次加工剥片2点・剥片12点・打製石斧21点・石皿5点・磨石7点・磨石または石皿1点・蔽石7点・加工礫1点、礫185点である。



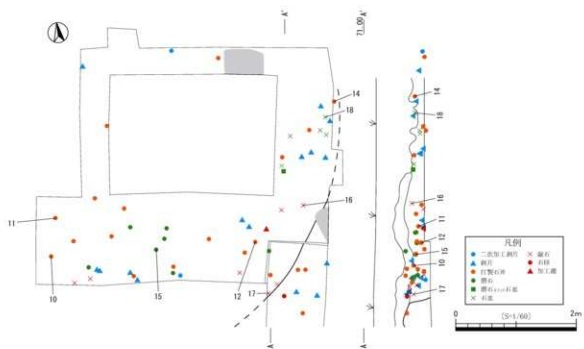
竪穴建物 S131J		
1   101RZ/3	黒褐色土	ローム较多く、赤色スコリアやや多く、炭化粒少量含む。粘性あり。しまりあり。土器片、石器、礫を多く含む層。

第17図 竪穴建物 S131J 実測図・出土遺物分布図

遺物全体の分布をみると、平面上では全域に分布するものの、北東隅が希薄であることから、北東隅まで竪穴建物の範囲は広がらない可能性が考えられる。垂直分布は、覆土上部から下部にかけて間断ない分布を示す。縄文土器の型式別では、平面分布に有意な傾向はみられないが、垂直分布から判断すると竪穴建物S130Jと同様に、覆土上部に加曾利式、下部に勝坂式（主に勝坂3式）が集中する傾向が確認できる。



第 18 図 竪穴建物 S131J 出土土器分布図

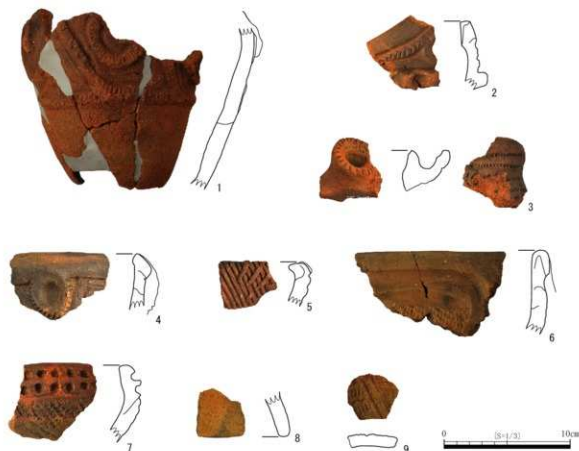


第 19 図 竪穴建物 S131J 出土石器分布図



縄文土器9点、石器9点を図示した。

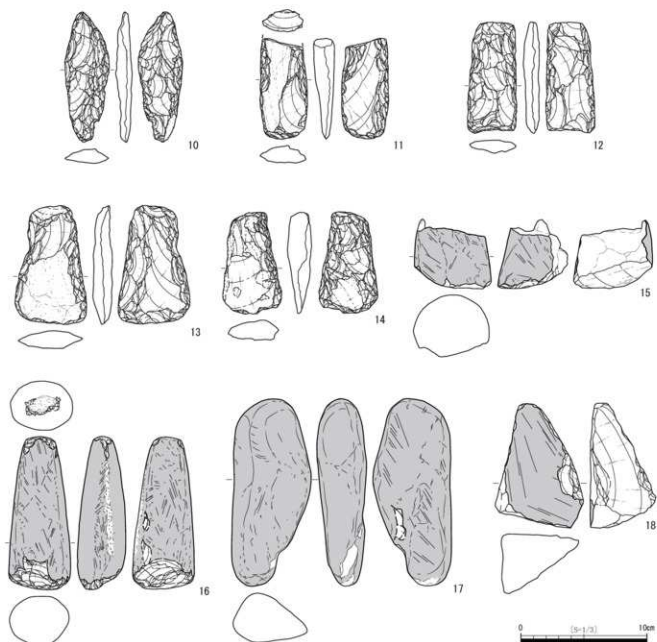
1は勝坂3式(9b期)の深鉢胴部で、胴上部と下部を刻みのある隆帯によって文様帯と無文帯に区画している。文様帯内は刻みのある隆帯による渦巻文と波状文で区画され、三角状の区画内には三叉文が交互に施文される。2は勝坂3式(9a期)の深鉢の波状口縁部である。口唇部は、やや肥厚する。沈線以下に綾杉状刻み目、交互刺突文、三叉文、押圧痕のある隆帯が施文される。3は勝坂2式(7a期)の深鉢の円形突起で、外面に三角押文が横位に配列して施文される。内面には刻みのある隆帯とその内側に沿って三角押文がみられる。4は勝坂2式(8b期)の深鉢口縁部である。口唇部は肥厚してやや内折し、直下に刻みのある隆帯による円形の小突起、小突起左側脇に押引文を施す。小突起右側は半截竹管内側による区画文と思われる。5は曾利Ⅱ式(11a期)の籠目文深鉢口縁部で、口唇部は内折する。口縁部に半截竹管内側による斜行沈線を施文し、上部に細い粘土紐を交差して貼付する。6は加曾利E3式(12b期)の深鉢口縁部で、太い横位凹線による楕円状区画、区画内に地文縄文RLが施文される。右端側は凹線による渦巻文となるか。7は加曾利E3式(12b期)の深鉢の内湾する口縁部である。円形刺突文が規則性をもって2段に施文され、直下に横位沈線が巡る。沈線以下は、平行する沈線間を磨り消した連弧文、地文複節縄文RLRが施文される。8は加曾利E3式であろうか、台付土器の無文の脚部である。9は勝坂2式(8b期)の深鉢片を利用した土製円盤である。打ち欠き後の研磨はみられず、文様は半截竹管内側による平行沈線、キャタピラ文、波状沈線がみられる。



第20図 竪穴建物SI31J出土遺物実測図(1)

10～14は打製石斧である。10～12は短冊形で、13・14は撥形を呈する。15は砂岩の磨石としたが、全面に研磨がみられ、素材や形状などから、石棒の可能性も考えられる。16・17は敲石である。16は凝灰岩を素材とし、ほぼ全面に研磨がみられ、基部に敲打痕が認められる。素材や形状などから、乳棒状石斧を再利用したものと考えられる。17は砂岩を素材としたもので、下端に敲打痕が認められる。18は砂岩の石皿で、正面に平坦な作業面がみられる。

廃絶時期 覆土下部に勝坂3式が多く見受けられることから、勝坂3式期の可能性が考えられる。



第 21 図 竪穴建物 S131J 出土遺物実測図 (2)



第 22 図 竪穴建物 S131J 出土石器写真

第 7 表 竪穴建物 S131J 出土石器観察表 (1)

検出番号	出土層位	時期	形状・部位 残存率	器形・文様の特徴	①色調 ②出土 ③構成	備考
20-1	竊土 下層	勝坂 3 (新地平) 9b 期	深鉢 胴部 1/2	胴上部と下部を削みのある隆帯によって文様帯と無文部に 区画。文様帯内に削みのある隆帯による波意文と波状文。 細部に三文文	①外面：暗赤褐色、にぶい黄褐色、暗褐色、 黒褐色 内面：にぶい赤褐色、にぶい黄褐色、暗褐色、 黒褐色 ②灰石、石英、管母、砂粒 ③良好	
20-2	竊土 下層	勝坂 3 (新地平) 9a 期	深鉢 口縁部 破片	波状口縁、口唇部肥厚、縁形状削み目、交互刺突文、三文文、 押圧痕のある隆帯	①外面：暗褐色、にぶい赤褐色 内面：にぶい赤褐色 ②灰石、石英、管母、角閃石、砂粒 ③良好	
20-3	竊土 上層	勝坂 2 (新地平) 7a 期	深鉢 口縁部 破片	円形突起部、外面三角押文、内面削みのある隆帯とそれに 沿う三角押文	①外面：暗褐色、黒褐色 内面：にぶい赤褐色、暗褐色 ②灰石、石英、管母、砂粒 ③良好	
20-4	竊土 下層	勝坂 2 (新地平) 8b 期	深鉢 口縁部 破片	口唇部肥厚してやや内折、口唇部下に削みのある隆帯による 円形小突起、小突起左側に押引突、半截竹管内側による 区画文か	①外面：暗褐色、黒褐色、にぶい黄褐色 内面：暗褐色、黒褐色、にぶい黄褐色 ②灰石、石英、シルト岩粒、砂粒 ③良好	
20-5	竊土 上層	資料 II (新地平) 11a 期	深鉢 口縁部 破片	口唇部内折、半截竹管内側による斜行文様、細い粘土紐を 交差して貼付	①外面：暗褐色、黒褐色 内面：暗褐色 ②灰石、石英、砂粒 ③良好	

第8表 竪穴建物 S131J 出土土器観察表 (2)

探図番号	出土位置	時期	発掘部位 保存率	器形・文様の特徴	①色質 ②胎土 ③焼成	備考
20-6	竪土 加曾利 E3 (新地平) 12b 期		深鉢 口縁部 破片	太い横位凹線による欄状区画。地文縄文 R。右端側は波 巻文となるか	①外面：暗褐色、にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色 ②灰石、石英、シルト岩粒、砂粒 ③良好	
20-7	竪土 上層 加曾利 E3 (新地平) 12b 期		深鉢 口縁部 破片	口縁部内周、連続円形刺文2段。横位沈線。沈線間を磨 り滑した縄文。地文複線縄文 RLR	①外面：暗褐色、にぶい赤褐色 内面：暗褐色、にぶい赤褐色、にぶい黄褐色 ②灰石、石英、角閃石、砂粒 ③良好	
20-8	竪土 上層 加曾利 E3 中		土付土器 断面 1/4 部	無文	①外面：にぶい黄褐色、褐色、暗褐色 内面：にぶい黄褐色、褐色、暗褐色 ②灰石、石英、角閃石、砂粒 ③良好	

第9表 竪穴建物 S131J 出土土製品観察表

探図番号 図取番号	出土位置	時期	器種	寸法 (cm)			重量 (g)	製法加工	文様	①色質 ②胎土 ③焼成	備考
				最大長	最大幅	最大厚					
20-9	竪土 上層	勝坂 2 (新地平) 8b 期	土製円盤	3.9	3.8	1.5	14.8	打ち欠	半截竹管内面による平行沈線、 キャピラ文、波状沈線	①外面：にぶい赤褐色、暗褐色 内面：暗褐色 ②灰石、石英、砂粒 ③良好	

第10表 竪穴建物 S131J 出土土器観察表

探図番号	出土位置	種類	石質	寸法 (cm)			重量 (g)	備考
				最大長	最大幅	最大厚		
21-10 22-10	竪土上部	打製石片	砂岩	10.2	3.5	1.3	43.7	完形、短冊形
21-11 22-11	竪土上部	打製石片	泥質ホルンフェルス	8.0	3.8	1.7	59.4	基部欠損、短冊形
21-12 22-12	竪土下部	打製石片	ホルンフェルス	8.8	4.0	1.3	60.9	刃部欠損、短冊形
21-13 22-13	竪土	打製石片	ホルンフェルス	9.4	5.7	1.5	100.9	完形、楕形
21-14 22-14	竪土上部	打製石片	ホルンフェルス	8.1	4.7	1.8	77.2	完形、楕形
21-15 22-15	竪土上部	磨石	砂岩	4.8	5.9	5.6	167.4	体部断片、全面研磨、石棒か
21-16 22-16	竪土上部	敲石	凝灰岩	12.1	5.0	3.9	355.9	刃部欠損、ほぼ全面研磨、基部敲打痕あり、乳棒状石片を再利用
21-17 22-17	竪土上部	敲石	砂岩	14.9	6.4	3.8	451.7	完形、下部に敲打痕あり
21-18 22-18	竪土上部	石皿	砂岩	9.2	6.5	5.3	290.4	断片、正面に平坦な作業面あり

第11表 出土遺物集計表

遺構名	縄文土器													石器	礫	近代以降	合計		
	阿玉台	磨板	勝坂1	勝坂2	勝坂3	曾利 I	曾利 II	曾利 III	曾利 IV	曾利 V	加曾利 E	加曾利 E1	加曾利 E2					加曾利 E3	中期
竪穴建物 S130J	1	17	1	13	282	1	2	4	6	1	1	5	20	63	148	49	61	0	675
竪穴建物 S131J	1	9	1	38	260	1	5	8	4	5	8	13	56	190	123	56	185	0	963
I 層	0	1	0	2	11	0	0	0	1	0	3	0	4	15	11	1	0	14	63
III b 層	0	0	0	9	25	0	0	2	0	0	3	1	8	26	14	9	20	0	117
合計	2	27	2	62	578	2	7	14	11	6	15	19	88	294	296	115	266	14	1,818

※縄文時代の土製品（焼成粘土塊）1点 [S130J 出土] を除く。

※縄文時代の土製品（土製円盤）は、使用された土器片の時期に基づき、土器数値に合算した。

## 第4章 総括

### 第1節 縄文時代

#### (1) 調査成果

今回の調査で検出された遺構は、縄文時代の堅穴建物2棟である。掘削限界深度と調査範囲の制約から、堅穴建物の全容を把握することはできなかった。床面にまで調査が及ばなかったことから判然としないが、いずれも覆土下部に勝坂3式期の土器が多量にみられることから、廃絶時期は勝坂3式期の可能性が考えられる。

確認調査（第21次調査）出土資料を合わせた出土遺物は1,819点で、このうち縄文時代に帰属するものは、縄文土器1,423点（うち土製円盤13点）、焼成粘土塊1点、石器115点、礫266点である（第11表）。縄文土器は勝坂3式と加曾利E3式が多く、石器は半数近くを打製石斧が占める。

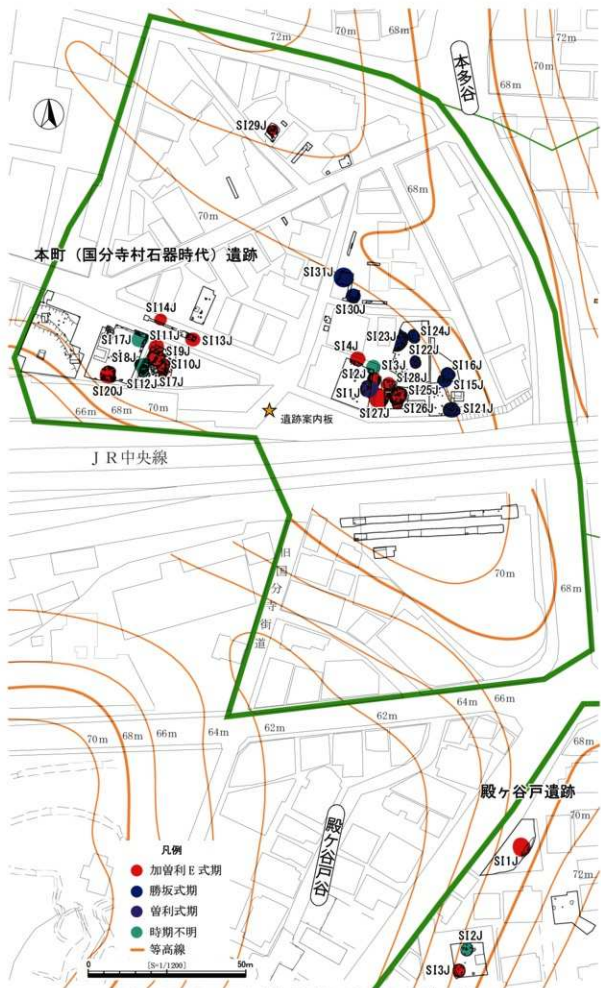
#### (2) 既往調査地点との相関性

本町（国分寺村石器時代）遺跡は、古くは明治27年（1894）に鳥居龍藏氏・大野延太郎氏によって調査が行われ、「武蔵国北多摩郡国分寺村石器時代遺跡」として『東京人類学会雑誌』に論文が掲載された。土器に関する記述として、阿玉台貝塚（厚手式）と同一であり、大森貝塚・西ヶ原貝塚（薄手式）と異なるとし、石器では台石の上面に疵痕があり、その台石にのせ、打欠いて打製石斧を作ったと述べており、本遺跡が打製石斧の製作跡であろうとしている（大野・鳥居1894）。この研究は、国分寺市における最初の縄文時代遺跡研究である。

このように古くから存在が知られていたものの、国分寺駅に近いという立地から遺跡内容が不明のまま宅地化が進み、昭和後期に再開発等に伴う発掘調査が行われることによって、集落の内容が少しずつ明らかになりつつある。本報告書刊行時の調査回数は22回を数え、堅穴建物27棟・埋甕9基（屋外埋甕4基）・集石2基・土坑12基・小穴127基・不明遺構1基が検出されている（第2表）。縄文土器は、主に勝坂式・曾利式・加曾利E式が出土しており、現況で把握できた堅穴建物の時期別分布図を作成した（第23図）。本遺跡は東側を本多谷、西側を殿ヶ谷戸谷に挟まれた舌状台地の付根部分に位置している。堅穴建物の分布をみると、概ね本多谷の崖線に沿って勝坂式期の堅穴建物のみられ、その内側から殿ヶ谷戸谷の崖線沿いに曾利式期～加曾利E式期の堅穴建物が分布している。本多谷の小支谷を挟んで北側には、加曾利E式終末期の敷石堅穴建物（SI29J）が検出されている。また、本遺跡南東に位置する殿ヶ谷戸遺跡では北西隅に3棟の堅穴建物が検出されており、同台地上に位置する本遺跡との関連性が注目される。既往調査地点の詳細に関しては、現在国分寺市が整理を行っており、その成果に期待したい。

#### 引用・参考文献

- 安孫子昭二・秋山道生・中西 克 1980 「東京・埼玉における縄文中期後半土器の編年試案」『神奈川考古』第10号
- 井上喜久治 1893 「玉川沿岸遺跡探検の記」『東京人類学会雑誌』93号
- 大野延太郎・鳥居龍藏 1894・1895 「武蔵国北多摩郡国分寺村石器時代遺跡」『東京人類学会雑誌』102・106・107・111号
- 桂 弘美他 2021 『令和元年度 国分寺市埋蔵文化財調査概報』国分寺市教育委員会
- 国分寺市史編さん委員会 1986 『国分寺市史 上巻』国分寺市
- 小林達雄編 2008 『総覧縄文土器』『総覧縄文土器』刊行委員会 株式会社アム・プロモーション
- 小林謙一他 2016 『シンポジウム縄文研究の地平2016—新地平編年の再構築—発表要旨』縄文研究の地平グループ・セフルメント研究会
- 山形県考古学協会 2021 『曾利式土器とその周辺資料集 付、曾利式（系）土器集成』山形県考古学協会2021年度研究会集
- 依田亮一 2020 「本町遺跡第17次」『平成30年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会



第23図 本町(国分寺村石器時代)遺跡 竪穴建物分布図

第12表 本町（国分寺村石器時代）遺跡 竪穴建物一覧表

遺構名	時期	調査 回数	備考
S11J	曾利式期	1	国分寺市史より
S12J	加曾利 E 式期	1	国分寺市史より
S13J		1	住居の一部のみ調査のため不明か
S14J	加曾利 E 式期	1	国分寺市提供資料より
S15J		2	欠番
S16J		2	欠番
S17J	加曾利 E 式期	2	国分寺市提供資料より
S18J		2	詳細不明
S19J	加曾利 E 式期	2	国分寺市提供資料より
S110J	加曾利 E 式期	2	国分寺市提供資料より
S111J	加曾利 E 式期	2	国分寺市提供資料より
S112J		2	詳細不明
S113J	加曾利 E 式期	3	国分寺市史より
S114J	加曾利 E 式期	3	国分寺市史より
S115J	勝坂式期	4	国分寺市提供資料より
S116J	勝坂式期	4	国分寺市提供資料より
S117J		6	詳細不明
S118J		6	欠番
S119J		6	欠番
S120J	加曾利 E 式期	6	国分寺市提供資料より
S121J	勝坂式期	10	国分寺市提供資料より
S122J	勝坂式期	12	国分寺市提供資料より
S123J	勝坂式期	12	国分寺市提供資料より
S124J	勝坂式期	12	国分寺市提供資料より
S125J	加曾利 E 式期	16	国分寺市提供資料より
S126J	加曾利 E 式期	16	国分寺市提供資料より
S127J	加曾利 E 式期	16	国分寺市提供資料より
S128J	加曾利 E 式期	16	国分寺市提供資料より
S129J	加曾利 E 式期	17	『平成 30 年度 国分寺市埋蔵文化財調査概要』より
S130J	勝坂式期	22	本調査地
S131J	勝坂式期	22	本調査地







1. 確認調査トレンチ設定状況（南東から）



2. Aトレンチ表土掘削後遺物出土状況（西から）



3. Bトレンチ表土掘削後遺物出土状況（北から）



4. Aトレンチ遺構検出状況（西から）



5. Bトレンチ遺構検出状況（南から）



6. Bトレンチ遺構確認作業状況（北から）



7. Aトレンチ南壁中央土層断面（北から）



8. Bトレンチ東壁中央土層断面（北西から）



1. 本発掘調査前全景（北西から）



2. 本発掘調査後全景（北西から）



3. 竪穴建物 S130J 西側検出状況（南から）



4. 竪穴建物 S130J 東側検出状況（南から）



5. 竪穴建物 S130J 調査後状況（南から）



6. 竪穴建物 S130J 調査後状況（南から）



7. 竪穴建物 S130J 調査後状況（北から）



8. 竪穴建物 S130J 南北土層断面（北西から）



1. 竪穴建物 S130J 西側遺物出土状況 (南から)



2. 竪穴建物 S130J 東側遺物出土状況 (南から)



3. 竪穴建物 S130J 遺物出土状況 (南東から)



4. 竪穴建物 S130J 遺物出土状況 (南から)



5. 竪穴建物 S130J 遺物出土状況 (南から)



6. 竪穴建物 S130J 遺物出土状況 (北西から)



7. 竪穴建物 S131J 検出状況 (北東から)



8. 竪穴建物 S131J 調査後状況 (北東から)



1. 竪穴建物 SI31J 南壁土層断面 (北東から)



2. 竪穴建物 SI31J 西壁土層断面 (南東から)



3. 竪穴建物 SI31J 遺物出土状況 (東から)



4. 竪穴建物 SI31J 遺物出土状況 (北から)



5. 竪穴建物 SI31J 遺物出土状況 (東から)



6. 竪穴建物 SI31J 遺物出土状況 (北から)



7. 竪穴建物 SI31J 遺物出土状況 (西から)



8. 竪穴建物 SI31J 遺物出土状況 (南から)

# 報告書抄録

ふりがな	こくぶんじし ほんちやう（こくぶんじむらせつきだい）いせき（だい22じちやうき）							
書名	国分寺市 本町（国分寺村石器時代）遺跡（第22次調査）							
副書名	国分寺市本町2丁目新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	針本謙介 平塚恵介							
編集機関	国分寺市教育委員会 トキオ文化財株式会社							
所在地	国分寺市教育委員会：〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10 武蔵国分寺跡資料館内 トキオ文化財株式会社：〒206-0011 東京都多摩市関戸5-1-14							
発行年月日	令和5年（2023）10月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
出丸じこくぶんじから 本町（国分寺村 せきぎじだい・いせき 石器時代）遺跡	東京都 国分寺市本町 二丁目5番地内	13214	28	35° 42' 03"	139° 29' 00"	2022年 10月24日 ？ 2022年 10月31日	27.44㎡	事務所兼 共同住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
本町（国分寺村 石器時代）遺跡	集落跡	縄文時代		竪穴建物2棟		縄文土器・土製品・石器・縄		
要約	縄文時代中期の竪穴建物2棟が検出された。遺物は主に勝飯式・加曾利E式の土器や土製品、石器などが出土した。							

文化財保護・教育普及・学術研究を目的とする場合は、著作権者の承諾なく、この報告書の一部を複製して利用できます。なお、利用にあたっては出典を明記してください。

## 国分寺市

### 本町（国分寺村石器時代）遺跡（第22次調査）

— 国分寺市本町2丁目新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行日 令和5（2023）年10月31日

編集 国分寺市教育委員会  
トキオ文化財株式会社

発行 国分寺市教育委員会  
〒185-0023 東京都国分寺市西元町一丁目13-10  
（武蔵国分寺跡資料館内 ふるさと文化情報課）

印刷 明誠企画株式会社

令和6年（2024）7月8日 デジタル版作成